

若者等活動拠点施設に係る景観町並保存連合会 保存会長会との意見交換会 結果報告

日時 平成29年12月14日(木) 19:30～20:45

場所 飛騨高山まちの博物館 研修室

出席者 景観町並保存連合会保存会長会、高山市企画課3名、高山市都市整備課3名

内容

(開催趣旨)

- ・ 「宮川朝市通り」修景整備にかかる意見交換を主目的とした景観町並保存連合会の保存会長会が開催されるのに合わせ、「若者等活動拠点施設」の概要説明を行うとともに意見交換を行った
- ・ 現時点では施設の用途が明確でない部分を疑問視する意見が多数聞かれたほか、近年の事例を挙げて市の進め方の批判をされた方もあったが、事業実施そのものや旧村田邸を候補物件とすることへの反対はなく、プロジェクトの概要や進め方の周知が図られたと考える
- ・ いただいた意見等は、今後の整備・活用内容や管理運営の方法などの検討の参考としていきたい

【主な意見交換】

Q.具体的な建物の整備・活用方法は？

A.建物の構造や間取り等は最大限活かした補修・お色直しを行うとともに、耐震や断熱対策、蟻害(あれば)等への対応、電気関係、水回りの整備などを想定
若者や地域住民などを中心とした多目的交流等の場として、具体的な議論に入っていきたい

Q.土蔵は使用するのか？

A.できるだけ使用していきたい

Q.管理者は常駐するのか？ 下町「よつて館」は鍵を地元で預かっている。施設を利用したい時に分かりやすい窓口が必要

A.公共施設として市の責任で管理を行う。直営や委託などの方法は、地域の方にも愛される施設となるよう、今後詰めていきたい

Q.「若者拠点」と言われても分からない。郷土画家村田瑞枝の生家であり、市の所蔵作品を展示する美術館とすべき。美術館の一つの機能として多目的利用すれば良い。信州と比べ、高山は美術館が質量ともに劣る

城山や北山には公園もあるし、煥章館もあるので、若者のことなど放っておけば良い

A.村田作品に関しては参考としたい、まち全体が美術館のようになれば良いと考える。若者は放っておけば良いとの意見には同調しかねるので、意見として承る

Q.若者に特化せず、地域との繋がりを最優先すべき。宮地家整備の時のように、地元の若者から高齢者まで、大学教授等の訪問者とお酒も飲みながらフランクに議論等できる場としてもらいたい

A.若者の定義は何歳からといった基準も難しいため、柔軟に考えていきたい

Q.宿泊させることは考えているのか？

A.考えていない

Q.旧森邸の整備に関して計 8 回の意見交換会が開かれたが、住民からの意見は、どこかへ行ってしまった。取ってつけたように「若者」と、急に住民に話が降りてくる。駅西や火葬場も同じことで、住民と総合的に進められないため高山市のやり方は上手くいっていない

A.言われるように点と点、線が面になるように地域全体を総合的に考え、若者を始め様々な人の関わりのなかで、今後、デザインづくり、まちづくりから一緒に考えていきたい

Q.下二之町は上二之町等と比較し、見るべきものが少ない。若者を集め議論するのは結構だが、地域住民等の意見も取り入れ、良い結果となるように進めてもらいたい

A.そのように進めたいので、ご理解ご支援いただきたい

以上